

『さらば、男性政治』が問いかけること

上智大学法学部教授 三浦 まり



- *男女同数を志向するパリテ法を提案
- *『さらば、男性政治』執筆の経緯
- *厳然とある男性政治の実態
- *日本のジェンダー・ギャップは世界125位
- *女性を増やすことは通過点
- *女性には男性より多くの「障壁」がある
- *男性中心の意思決定にあるは限界
- *いかにケアに満ちた社会を作るか
- *「婦選は鍵なり」を考える
- *実際にこれからどうするか

山縣 それでは開会いたします。

本日は「石橋湛山賞」記念講演会ということで開催させていただきます。石橋湛山賞は石橋湛山記念財団が主催をされておりまして、東洋経済新報社と当経済倶楽部が後援をしてやらせていただいております。

今年はいは三浦先生、それから来週のケネス先生の2人の方が受賞されましたけれども、本日は三浦先生にお越しいただきましてご講演をお願いしております。

開会に先立ちまして、石橋湛山記念財団の代表理事で、当経済倶楽部の理事もお務めいただきしております石橋省三様にまずお話をいただきます。その後、講演会に入らせていただきます。

では石橋様、よろしく願いいたします。

石橋 石橋です。

本日はお忙しい中、講演会にご参加いただきましてありがとうございます。

コロナの前は石橋湛山賞の授賞式とその後の講演会は同日開催をやっておりまして、湛山賞の記念講演らしかったんですが、コロナになりまして日にちが分かれるようになって、最近授賞式があつてから2〜3カ月後が多かったです。このたび山縣さんのご尽力で授賞式からそんなに離れない中で記念講演らしく本日開催できるというのはたいへんありがたく存じております。

女性の受賞者のとき、以前は何人目というふうな話をしていたんですが、今日の話題からす